150枚の画像が語る 幕末・明治の国際都市ハコダテ

はこだて外国人居留地研究会は、函館独特の街並みを今に生きる歴史遺産ととらえ、それを生み出した国際交流の歴史を研究してきた。研究会は、その成果を市民の知的財産とするため、これまで10編の歴史リーフレットを発行し、地域の再生を目指して活動してきた。

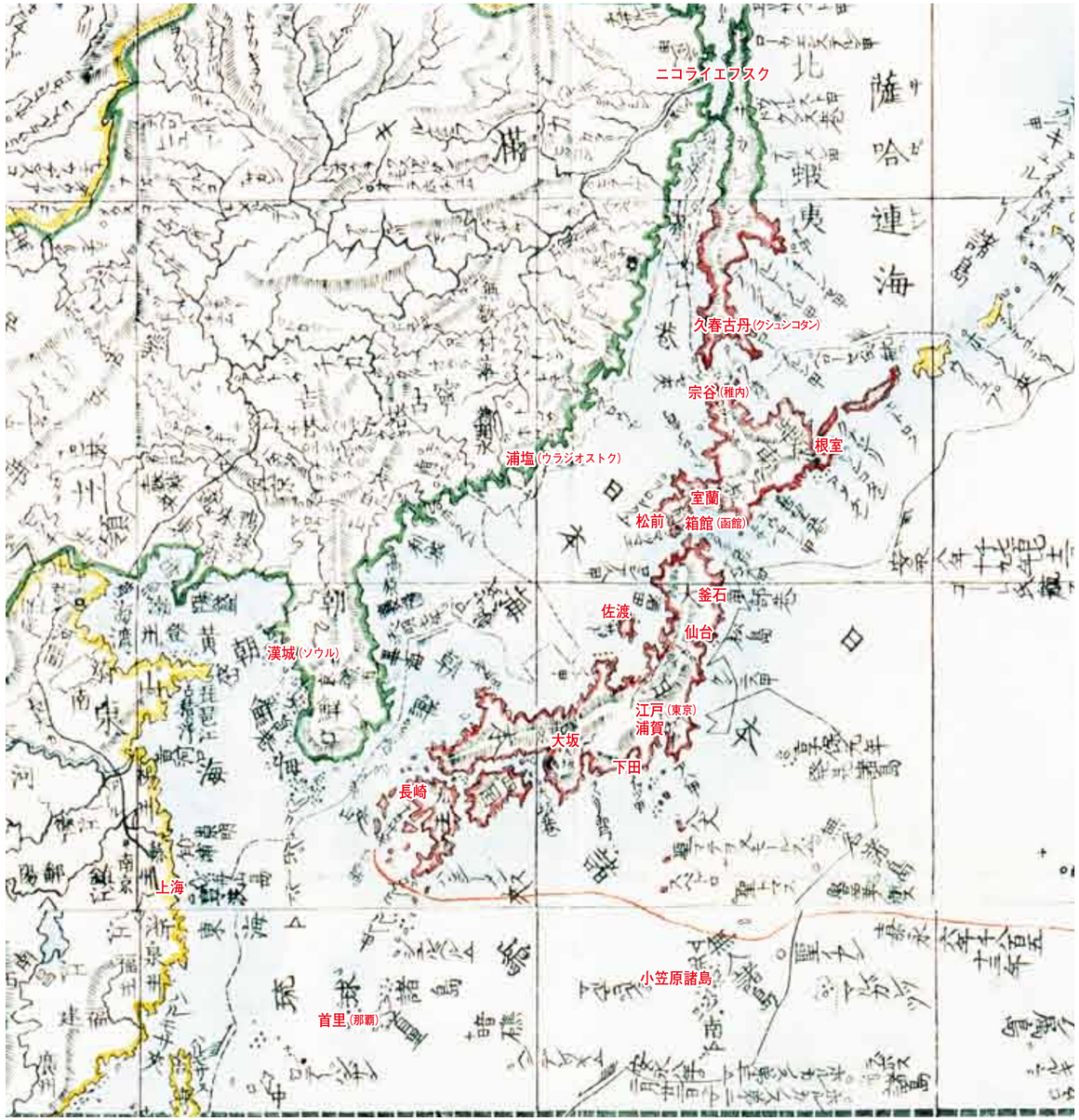
最近の外国人観光客の増加は、函館が国際観光都市としてさらに発展できるポテンシャルを持つことを示している。そこで、幕末・明治に形成された函館の歴史遺産に関わるストーリーについて国内外に発信することは、地域の国際化に大いに寄与すると考えた。そのため、これまで発行してきたリーフレットの成果を総合・発展させた独自の冊子の発行を企画した。またアジア諸国のみならず欧米諸国からの旅行者にも身近に函館の歴史に興味を持っていただけるよう英語版の発行も視野にいれた。

我々は、これらによって、今後新幹線やクルーズ船の発着により活発化が期待される人的交流にも幕末・明治のような国際性を復活させる契機とすることを計画し、これを「第二の開港」プロジェクトと名付けた。幸運にも、この企画がトヨタ財団・2013年度国内助成の対象となった。

本冊子は、あまり触れられてこなかったテーマを古絵図や古写真等から読み解くという、これまでにないスタイルをとっている。市民のみならず国内外から函館を訪れる旅行者が、本冊子を通して国際都市・函館の歴史について興味を深めていただければ、研究会にとって望外の幸せである。

最後に、本冊子の企画・発行に対し助成を受けたトヨタ財団、ならびに多くの協力者の皆様に心から感謝を捧げたい。

はこだて外国人居留地研究会
「第二の開港」プロジェクト立ち上げチーム
代表 岸 甫一
2015年2月 函館



奥地航海図(日本周辺の部分拡大図):1858年(安政5)制作。
元図(左)は1845年イギリスで制作、幕末に来日したロシア使節プチャーチンが持参、沼津の医師が書写・翻訳し刊行

目 次

第一部 ラクスマン来航から箱館戦争まで

幕末開港期の箱館を眺める …… 2
関連年表 (1793—1869) …… 4
全てが前代未聞 …… 6
日本開国を巡るアメリカとロシア …… 8
日本と西洋音楽の新たな接触 …… 10
ペリー遠征記に残された「雪の峯」の謎 …… 12
万年橋の幻の貿易プロジェクト …… 14
箱館から始まったキリスト教会 …… 16
海上から見えた赤い館とは? …… 18
箱館の事件が招いた堀利熙の切腹 …… 20
箱館の外国人居留地はどこに? …… 22
幕末の箱館でニコライが蒔いた種 …… 24
カションと鋤雲、函館での出会い …… 26
サムライ大島高任と二人のお雇い外国人 …… 28
新島襄・飛び石が繋いだ函館とニューイングランド …… 30
アイヌに関心を持ったイギリス人 …… 32
蝦夷支配の「榎本政権」の実像 …… 34
中華会館から居留外国人の歴史をさかのぼる …… 36
“ガルトネルのブナ林”が語りかけるもの …… 38

第二部 開拓使設置からスコットの死まで

函館西部地区の街並みのルーツ …… 40
関連年表 (1869—1925) …… 42
函館の貿易とイギリス商人 …… 44
お騒がせ男 ブラキストン …… 46
イザベラ・バード函館滞在記 …… 48
外国人居留地に設置されたキリスト教系女学校群 …… 50
函館で生涯を終えたロシア人たち …… 52
「旧ロシア領事館」から見た函館とロシア …… 54
渡来スポーツ先駆けの地・函館公園 …… 56
函館の華僑と中華会館 …… 58
欧米人と結婚した女性たち …… 60
保存されていた一枚の写真 …… 62
参考地図 …… 64

(注)本文中の表記について
1) 月・日の表記は、明治5年までは和暦、同6年以降は陽暦に拠っています。
2) 外国人の名前の表記は原則として母国語の読みとしますが、すでに慣用的に使われている表記がある場合はそれに拠った場合があります。